

○議員（6番 伊原 徹君） 人気商品、アナゴとクエということで、これ安定供給がいかにか  
きるかと。そういったなりわいをなされている漁業者の方々も専門的にされているんじゃないか  
と、漁業されているんじゃないかと思えます。これは地域商社、対馬の地域商社から提供してい  
るんですか。漁業者単独やなくて。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） 食材、アナゴですか、アナゴにつきましては、おそらく  
おっしゃられるように地域商社からの仕入れが多いとは思いますが、それだけに限らず、そ  
のとき手に入るもの、手に入るところからという考え方でおります。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 何しろ生物ですから、当然しっかりとした提供をしなければ、一  
旦マイナス要素になると、もうそれで終わりです。はっきり申しまして。いろいろ食材、取扱い  
大変だと思いますけれども、今の所長さんとそれから観光物産協会の職員さんですか、主にいらっ  
しゃるみたいですけど、福岡の土地で今後、対馬の名前をアピールできるようにしっかりと取組  
をしていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時48分休憩

午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆様、こんにちは。私は、かつて企業誘致という言葉で一般質  
問をしたことはございませんが、このたびは少しボリュームのある一般質問となります。

後に詳しく説明もいたしますが、ただいまから通告に従い市政一般質問を行います。

企業誘致について2点ほど、市長にお尋ねをいたします。

1つは、株式会社福岡魚市場が対馬比田勝港を中心とし、韓国との魚類の輸出入、いわゆる貿  
易の構想をこれが浮上しております。

このことについては、去る11月9日、福岡魚市場社長、川端淳様が市役所を対馬市長を訪ね  
ていると思われま。このことは承知しているところでありますが、市長はこのことについて、  
どのようなことが話され、そして、どのような思いで、今後このことに対応しようと思うのか。

このことについてお尋ねをしたいと思います。

また、この背景には、上対馬町泉地区で創業しているジャパンシーフーズのアジ・サバの加工商品の生産拡大が関連しているものと思われませんが、そのこと以外の構想があり、これは過去にないビッグチャンスが私は訪れたものと思っております。

福岡魚市場と韓国のまき網を中心とする業者との間で、直接、福岡魚市場と買取りについての韓国側の取引の打診があっていた模様であります。このことから今回その構想が始まったと思われる。

概要で、数値的にはここで話していいかどうか分かりませんが、当初立ち上げに約1年間30億の約3,000トン、この取引を立ち上げたい。安定時には100億の規模にこれを持っていきたいと、このようなことが話されているようであります。

しかし、対馬の貿易港は現在、厳原港1港のみであります。仮に比田勝港に入港できず厳原港に入港した場合、海上輸送では、さらに片道80キロ、往復160キロの海上輸送。さらに陸上では、厳原から比田勝まで約90キロ足らず、このようなトラックの運搬が見込まれます。

この流通経費については大きなロスでございます、例えば、10トン車、保冷車、これに1,000箱満載して約100円、1箱当たり100円の経費。結局、厳原から比田勝まで10トン車1台あたり10万円の経費がかかるというふうなことであります。

そして、海上輸送の船の経費、燃料代、これがかさむことになりまして、非常に比田勝港に貿易港を定めることを最終的にやらないと仕事がうまくいかない。かようなことになろうかと思えます。

このことについての詳細は、後に説明をいたしたいと思います。

次に、東京千代田区丸の内には存在する一般社団法人島の海を豊かにする会、代表、山崎養世。この方男性ですけども、「養世」というふうな、養う世の中の世ということでございます。

この方が長崎県内のプロジェクトを立ち上げておる中で、ハウステンボスの長崎IR、カジノのことでございますが、それと五島列島において再生可能エネルギー、これを中心の島にしたいというふうなことでございます。

それと対馬が水素中心のカーボンニュートラル、対馬、これを立ち上げるというふうな方向でございます。

この対馬の場合、風力発電及び太陽光の発電により水が元となり電解、電気分解ということでございますが、これにより水素を製造し、この施設整備、保存タンクの確保、蓄電池の生産等、投資額は約1兆円とも言われております。対馬島に水素研究所を設置し、カナダより専門科学者が近年この島に調査に入り事業を進める方針としておるそうであります。

なお、資金提供総額は35兆円を県内の事業箇所にしており、そういうふうなことが資料に記

載されております。

このことについては、私もそんな深い勉強がしておりません。その辺で市長にこのことをぶつけていいのかなと思うんですけども、取りあえず今の段階で情報を得ておるならば、市長の見解をただしたい。このように思います。よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに企業誘致についてでございますが、まず韓国との水産物の貿易につきましては、現在、主に博多港等を経由しての輸出入が行われておりますが、その取引につきましては、輸出はほぼ少量であり、輸入については、1億8,000万円から3億1,000万円程度となっているところでございます。

その一因といたしまして、対馬の全体漁獲量を消費できる国内での販路が確立されており、一定の単価につながっていることに対し、韓国貿易については、輸送コストや価格面での優位性が低かったことなどが上げられます。

また、近年の水産情勢といたしまして、長引く燃油価格の高騰に加えて、餌料、加工原料の高騰等、コスト増大の影響を強く受ける厳しい状況が継続しており、資源量、漁獲量が減少する中で、いかに収益性の高い漁業へ転換するかが喫緊の課題となっております。

これらの課題解決に向けては、多様なニーズに対応できる柔軟な発想が求められることとなり、これまでの国内目線だけでなく、海外等、幅広い選択肢を持ちながら、漁業関係者にとって、収益性の高い販路拡大に取り組む必要があると考えております。

議員御質問の韓国からのアジ・サバなどの輸入については、先月、民間事業者の訪問を受け、比田勝港における貿易の可能性について意見交換を行ったところであります。

輸入魚種につきましては、主に加工原料としての活用が想定されるところでありますが、輸出入両者にとって好条件で事業規模拡大につながるものであれば、企業参入も含め雇用の拡大等、波及効果は大きいものと思われまます。

また、比田勝港が本土・韓国間の輸送ルートの中継寄港地となれば、対馬の事業者にとって本土を経由する必要がなくなり、輸送時間等コストの縮減、鮮度保持等、メリットは大きく、地理特性を十分に発揮できるものと期待するところであります。

しかしながら、現在、比田勝港は政令で定める貨物の輸出入及び外国貿易船の入出港が可能な港となっていないため、韓国貿易の可能性を検討する上で開港に向けての要件整理、保税倉庫の必要性、C I Q体制の整備等、多くの課題を解決する必要があります。

現在はあくまでも可能性検討の段階でありますので、今後、民間事業者から具体案が示されれば、C I Q等、国の機関及び港湾管理に係る長崎県などとの連携強化に努め、その実効性、課題

等を抽出しながら必要に応じて関係者間で協議を進めてまいりたいと考えております。

次に、一般社団法人島の海と陸を豊かにする会が計画しておられます、本市における再生可能エネルギーの開発に係る市の捉え方に関する質問でございますが、対馬市内外のエネルギー関連の団体や研究者など約60人の参加により同会が設立されていること、また、同会が人口減少や農林水産業の衰退、海岸漂着ごみ問題といった本市を取り巻く様々な課題解決を図る対馬プロジェクトの一環として太陽光発電によるウニ、ナマコ等の陸上養殖に取り組む計画や、集落の用水路などを利用した中小水力発電設備、亜臨界水を用いたごみ処理施設の設備、大規模洋上風力発電の段階的整備等を掲げていることについては、新聞報道等で承知はしておりましたが、先日、東京大学をはじめとする関係者の皆様が来庁され、取組概要の総括的な説明を受けたところでございます。

一般社団法人島の海と陸を豊かにする会が掲げておられます構想内容に係る市の考え方、捉え方でございますが、本市におきましても、これまで市内温泉施設への木質バイオマスボイラーを導入するとともに、次年度以降においては市公用車における段階的な電気自動車の導入を計画しており、脱炭素化を推進していく方針でありますので、今後、具体的な協力や連携等のお話があった場合には、取組の詳細等を検討しながら、今後、適切に対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。

まず、福岡魚市の構想は、川端社長様がちょうど市に行かれる前に、ちょっとした話の協議の場が15分ぐらいあったんですが、そこにちょっと顔を出す用がございまして、先ほどの言葉が、30億から100億の単位の取引になるだろうというふうなことであります。それと、ジャパンシーフーズの計画とこれはもともと連動した中で事が進んだということも承知しております。

この背景をちょっと確認いたしますが、ジャパンシーフーズ泉工場、これは令和3年度の実数ということですが、作業従事者約40人、業種、アジ・サバ加工用としてのことでございます。

売上げが当時8億円。ジャパンシーフーズの全体の20%に匹敵する。仕入れ先は長崎県内の松浦、その他、それと佐賀県唐津、そして、福岡魚市場ですね。

これを地元、上対馬南漁協で行われている、まき網操業のことなんですが、ここに船団が2船団ある中で、年間約700トンの水揚げをしておると。これを全てジャパンシーフーズの原料として買い取りをしたいというふうなことがあったんですが、これが協議は最終的にできなかったというふうなことをある中で、福岡魚市が韓国からアジ・サバの直接買取りを要請された中

で、このことを対馬に振り向けたような形になっております。

一つの私は流通のチャンスの芽が出てきたと見ているんです。

数字から言うて、魚市場、こちらに、福岡に取るよりは対馬に上げたほうがいいじゃないかというの理想です。どっちも。わざわざ福岡から比田勝港に、比田勝港じゃなくて、比田勝にですね、あるいは泉に、結局フェリーを、あるいは九州本土のトラックを經由して対馬に入れる。大きな経費のロスであります。これを一括、流通経路を変えて対馬に上げればいいじゃないかと。何も競りをするんじゃないで、それは買い取って、韓国のまき網の業者の魚を買い取って、福岡魚市がですよ。そこが今回の大きく強いところなんです。これは民間がやった場合、難しいんですけども、魚市が動くということは、漁民にとってはベストの状態。そう思いますよ。

そこで話がまとまったことであります。このことが背景にございますが、最終的にジャパンシーフーズは第2工場を拡大、既に用地は確保して、それで最終的に売上げ40億が可能な対馬で規模を確定したい。そして最終的には150人の雇用がここに確立する。これは夢の話じゃなくて、この取引が成立すれば、即そういうふうなことをやっていく状態がありますので、その辺はまた皆さんの話をよく、市長聞かれまして、どうしても進めないといかんということであります。対馬の若い人が40人の中はかなりおりまして、2年前に産業建設常任委員会の所管事務調査で現地の人々を私は見たわけですが、やはり企業に育った子どもたちの目は非常に輝いて、仕事に対する真剣さを目の当たりにしたわけで、非常に対馬がよくなる一つの材料やなということを私は思いました。

これが、40人が150人になるということは、さらにですね、私はかつてない規模の就業がここに確立する。これは非常に対馬にとってキホンになる、私はタイプになると思いますが、市長はこのことについてどう思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も実際に福岡魚市の社長とお会いできまして、そのような計画をお聞きいたしました。私自身も大変歓迎をしているところでありまして、ぜひ、この計画が実現することを望んでおります。

ただ、その中で、今現在、その陸揚げしたいとする比田勝港が貿易に関して、できる港じゃない。不開港であります。どうかして、ここ比田勝港を開港にするためには、輸出入の船の隻数が1年間に合計で、輸出入で11隻。そして、この輸出入関係の貨物の合計額が5,000万円を超えるという条件が出されております。このことは、今の計画が実行に移されれば、当初のおそらく何年間かは厳原港で一旦水揚げといいますか、してから、比田勝港に運ぶ方策を取らざるを得ないのかなとは思いますが、このところについては、先ほども答弁いたしましたように、今後CIQとか、県の港湾管理者等とも十分に協議をしながら、比田勝港のほうも開港となるよう

に目指してまいりたいと思います。市といたしましても、このことについては一生懸命取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そのことで、私、12月1日に勉強、そして、どういうふうなことがそういう開港、港を開く、輸入輸出ができる貿易港のお墨つきが来るのか。このことで、正式名称は、財務省門司税関厳原税関支署というふうな名称になります。その署長さん、支署長さんが福本様、それから上席管理官アサクラ様と統括監視官トヨタ様、トダ様と4名の方が、私、電話1本やったんですが、わざわざ説明の席に座っていただきですね、4人の方から、いろいろなことを教わりました。

その港の許可、これについては、先ほど市長が言われたように、開港基準をクリアせないかんというふうなことなんですが、ただ、明文規定はなしというようなことになっております。

開港は、さきのおり貨物の輸出及び輸入並びに外国貿易船の入港及び出港その他事情を勘案して定めることとされている。具体的には、開港基準を上回っていることは当然のこととして、外国貿易船の入港隻数、輸出入の申告件数などの行政需要や港湾施設や背後地の整備状況、今後の利用見込みなど、さらには取締り上の支障の有無、税関の定員事情等を総合的に考慮して判断されるというふうなことが明記されとる中で、比田勝港は既に、船の、乗船、下船の中のそういうふうな職員は十分満たしておるから、ここにおいては問題ありませんよと。あとは検疫における、植物検疫等を含めた中での検査というふうなことだけやから、要は手続をするような、開港という、港を開いて貿易港にする手続を進めることを明言されまして、先ほど言いますように、これは参考ですが、開港に向けた地方自治体の取組例ということで書かれておりますが、外国貿易船の出港実績、入港、輸出入実績の積み上げをということにありますけども、これは厳原港と比田勝港の要は2港を造るという中での努力をしてくださいという意味ということでは先ほど言うたことでありますが、ただしですね、実績を積むことと、これは大きな企業が確定して、間違いなく物を運びますというふうなことが、今回はちょっと違うタイプになりますから、こここのところを早速政治の活動としてですね、まず、厳原税関支署、この計画を樹立された中で説明に行かれること、それから門司税関に行かれること、そして財務省に行かれること、このことを確認も取っております。そういうふうなことをしてくださいということになるわけで、それと先ほど港湾の管理。これは県の港湾管理課というふうに言葉があったわけですが、最終的には国は国土交通省ということになるろうと思いますが、そういうふうなことを進めることを早急にまとめて、どれだけの量が動くかということではですね、先ほど言いましたように、今の状態から10倍以上のことがありますし、10倍どころか100倍までないとしても、大きな品が動くということで、対馬

の流通が変わるような話でございます。ここのところをしっかりと捉えて、即計画樹立されて、魚市と協議されて、そして地元の体制を漁協も含めて話し合いをして、そういう倉庫的な保管庫もしくは冷蔵冷凍のことをどうするか、打合せされて、これで決まれば、早速そういうふうな国への省庁への手続、国、もしくは、そういう地方機関の協議に即行かれて前向きな回答を取っていただきたい。かように思います。

そのことについて、そうせな、ならないかんということを手紙でおられましたから省略していいんですが、その中でですね——ちょっと今のことについては、お互いに前に進むためにはそういうことをやらないかんということで確認は取りましたから、ちょっと省略いたしましょう。

魚市ですね、考えの、私もちょっと僅か15分ぐらいの間に聞いたんですが、何もアジとサバだけじゃなくて、こんなことをおっしゃられていましたよ。明太子の原料になるタラの卵ですか。これを要は取り扱うことも構想にあると。対馬にという話ですよ。そういうふうなことが描いており、なおかつ、こんなことを言っていましたよ。韓国は今、日本の握り寿司ブームである。このネタが足りない。だから、対馬で取れた魚を韓国に輸出することを考えたいと、こう言っていました。これは、業者といえど魚市がやるんですから、そういうふうな買い取って、漁民から。だから競る場所がなくてもいいというやり方なんでしょう。だから福岡魚市の実績、取れた実績の単価に合わせて、そういうふうな協議をするんでしょう、おそらく。アジ、サバもほとんど箱物で運ぶそうです。そういうふうなことでありましたから、ここは対馬の漁民にとって、漁業にとって、大きく物は、後ろが僅か50キロ、前に百何十キロ、それは江戸時代の貿易というふうなことが、利にかなったものを運ぶという世界にちょうど私は入り込んだなと思います。市長、このことを、私はちょっと流れが変わるんじゃないかと。物の売り方が。その辺に何かございましたら御意見を賜りたい。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この計画につきましては、大変対馬にとってビッグな計画でございますので、先ほど議員のほうからも話がありましたように、早急にこのことについて、C I Qをはじめ、県の管理課関係とも協議に取りかかってまいりたいと思います。

要は、先ほども私申しましたけども、地方港湾であっても、開港が可能だということも、この前いろいろ聞いたところによりますと分かりました。

今、長崎県内で開港になっている港が重要港湾3港をはじめ地方港湾が2港でございます。そういう関係もございますので、今後、この比田勝港の開港に向けて一生懸命に積極的に取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 地元のことで私は忘れておりましたが、何も、ジャパンシーフーズだけじゃなく、地域商社、元豊玉の要は振興公社、ここにも仕入れができないという、限界があるという言い方が、私はそのときの産業建設常任委員会所管事務調査のときに、責任たる方が言っておられました。それで1億が限界ですよ。今のやり方、ずっと。

だから、こういうことが花開くようなことで、あとは商品開発を学んでやっていって、地域商社の、やはり1億どころか10億ぐらいのことに突破するようなことをするのがこういうふうな改革だと思うんですよ。私は可能と思いますよ。そういうふうなことが。ただし、ジャパンシーフーズの味つけというか、商品開発がもう全国レベルの世界です。しかし、それをまねていくような、あるいは、まねるというよりは学んでいくようなことで、地域商社も今回の問題は大きく耳を傾けて、ぜひ期待をして、私はやっていかないかん。そして、また、それをほかに関わるそういう方があれば、この輸入システムをどんどん活用して外に物を売っていく方が増えていけばいいがなど、そうなれば、比田勝の港がどんどん大きく栄えるような気がいたします。そういうことで、私は、くどいようですが、財務省のほうに行かれて、門司税関に行かれて、熱弁されて、短期間で許可が下りるような行為を、気持ちを出してほしい。これに大きな勝負をかけて、今までの対馬の漁業が変わっていくような姿をぜひ自負として責任を持っていただきたい。かように思います。

内容的には、もう話の中身はおおむね言ってしまったんですけども、何かほかにございましたら、市長、何かございましたら。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私、このことに関しまして一番心配していたのが、地方港湾で開港が可能かどうかというのを一番心配していたんですけど、以前は比田勝港のほうでも貿易をやっておりましたので、おそらくこの関係で、その当時は比田勝港としても、現在の不開港じゃなくて、開港として貿易をされていたんじゃないかなというふうに思っております。そういう関係もありまして、今後、今、議員からも指摘ありましたように、できる限りですね、早い段階と申しましようか、スピーディーに動いてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 福岡魚市の企業誘致という言葉で私はいいと思います。それを望みたいということでもありますから、ひとつ連携をして、受け入れる体制をつくって、地元の漁業協同組合関係者と十分話をして、行政ばかりが先に行かんように、また話合いの場を持っていただきたい。



それと、次に水素のことについて、私も勉強不足で、このことをこういう資料から見て、一般質問ということで、まだまだ勉強が足らん中で、軽々しい話ではできんとですが、ただもう既にそういうことをしようというふうな計画ができていた資料を見たときに、今からの産業、エネルギー革命、いろいろある中で、水素というのは水から電気分解をして水素を取り出すと。その電力は太陽光もしくは風力発電というふうなことを考えておるみたいです。

このことについて、お互いに、今の水素を作る、対馬でそういうことをできるのかという、まだ分からない未知の世界でございますが、ここらについてはどうですか。私も非常に今から勉強せないかんという思いがあるんですが、ただ、背景に、方向性がうまくできれば、金目にいとわなというふうな内容のようであります。

だから、これもまた、よく調べて、可能性があれば前に進まないかんというふうなことで、研究所を造らないかんというふうなことで、市が関わることじゃなくて、こういう民間団体がやっっていくそうなんですが、ここらの動きをやはりもっと捉えていかないかんと思いますが、市長、その辺距離がかなりお互いにあると思うんですけども、どんなもんですか。その技術的なことについていろいろ難しいことがあると思いますが、ちょっとはコメントがあれば。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この洋上風力発電関係に関しましては、もう長崎県内でも五島が先はかなり進んでおりますけども、対馬市といたしましても、今ここは独立電源の島でございます。そういう関係でも洋上風力発電の今、可能性を調査するために環境省の補助をいただきながら洋上調査とか、いろいろな風況調査とか、そういったところを実施している状況でございます。

その調査のほうは、ある程度終わったら、このほかにまた公募等をかけながら、民間等のほうに洋上風力発電の実施に向けて公募をかけていきたいなどは思っておりますけども、対馬の場合、今のところ、その規模にもよるんでしょうが、作った電気を島外に売るためには、ここから本土のほうに海底ケーブルを引かなければなりません。そのことも含めまして、ただ、その洋上風力発電をされる場合は、どうしても対馬島内だけでの電力が余ったときには、それを水素の製造に向けたというような話は以前から私のほうも聞いております。そういうことでもありますので、この可能性はかなりあろうかとは思いますが、今後、脱炭素の島に向けて、洋上風力発電等の再生可能エネルギー、そしてまた、こういったいろいろな脱炭素的な事業を進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。先ほどの比田勝港の貿易港としての港のことを少し私は心配をしている点が1点あります。

せんだって、厚生常任委員会の所管事務調査、上対馬病院の建て替えにおいて、3つの候補地

があると。そして、そのうち、ちょうど網代、網代は埋め立てた場所ですね、国内の航路の整備された建物の先の空き地の方向で、病院の候補の一候補地であると。その他、比田勝中学校の左側の向こう手が、山手のほうに高台にどうかと。そういうふうなことで、私は、2か所について、そういうことがあるんだな。しかし、貿易の港の問題が浮上した場合に、ここで競合せやせんかな。そんな感じがいたしまして、これ早めに、もう一遍、上対馬のあるいは北部の発展を考えた場合、どういうふうな絵を描いたがいいのか。もう一遍そこらあたりを練り直していかないかんことがあるんじゃないかなという懸念をしておりました。

だから、一番環境的に、お金もかからんのは、網代の広場が病院の建てる場所としてはいいかもしれません。ただ貿易の問題が浮上したときに、これがどうなるかというのは、私は引っかかるばいなと思うとったんですが、そこらをひとつ対馬市としては十分話を振り出しの中で深い考えの中で決断をせないかんだらうというふうに思いますが、これは余分ですけども、そういうふうなことも、早めにはっきりしていかないかんことであろうと、こういうふうに心配しております。

そういうことを今日は中に入ることなく、そのくらいの程度で私は終わりますが、ひとつ、慎重な考えの中で対応していただきたい。港の用地がそんなにあるのかというのは、あまり横幅がない場所ですから、縦長でありますから、船の往来の貨物船のどこにどうというようなことが出てきましようが、そこらあたりを少しチェックしていただきたい。かように思います。

残り3分でございますが、私の一般質問はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は午後1時5分からといたします。

午前11時53分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。波田政和君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 会派、市民協働、9番議員の脇本啓喜です。

まずは、前回の9月定例会最終日において、高レベル放射性廃棄物（核のごみ）最終処分場誘致に、比田勝市長が、議会が誘致推進の請願を採択したにもかかわらず、誘致反対の判断をなされたことについては敬意を表します。しかし、3月定例会で小職が一般質問を行った時点で、